

《資料 I・スリム・ア新聞から》

徹底して自己総括（いよいよ）過去を反省し、自らの文筆で「トビ」を書き返さない限り——剣の出す方（？）限り——本気で勝負しない。中卒者（？）と相手を組めずに革命の首を向け（？）ける仲間（？）殺される立場にある仲間（？）「武器になる生きた「トビ」を、

看守殺傷を不起訴

（スリム・ア）
 七月三十一日夜、大阪市都島区友部町一、大阪拘留所内で看守一人を強用ハサミで死傷させた未決囚、斎藤英郎（三〇）の刑事処分を検討していた大阪地検刑事部は二十一日、精神鑑定の結果、斎藤は事件当時、心神喪失だったとわかれ不起訴処分にした。同地検は精神衛生法により豊中市内の病院に強制入院させた。

五日後に自殺死体で発見

保護願いなし 精神病院抜け出した患者

泉 佐 野

精神病院から抜け出したシンナ。一、中野の患者が五日後、泉佐野市内で自殺死体でみつかった。この間、病院側は警察に保護願いは出さず、身内に連絡していただけ。泉佐野署では「患者が数日も行方不明なら、身を探して保護願いを出してほしかった」といっている。

泉佐野市段原墓地公園で、男の首つり死体が見つかったのは十日午後。泉佐野署の調べで同市、無職Aさん（四二）である五日午前九時ごろ、入院先の泉南郡旗取町七丁目、精神科七山病院（本多浄院）から脱走したとされている。行方不明だったことがわかった。遺体は死後数日たち、所持品もなかったが、同署にAさんを知っている刑事がいて、やっと身元がわかった。

同病院の話では、Aさんは七月六日、シンナー中薬で入院、回復に向っていたという。行方不明になった五日、病院側はAさんの兄弟らに連絡して捜していたというが、警察への保護願いは出ていなかった。事件発覚後、捜査員は「戻ってこれればバツ一（？）の巡回で済むが、自殺防止はかもしれない」といっている。

※右の「トビ」、永山則夫の解放学校から教えられた。正しいと思ったので無断引用した

看護婦と基準の三分の一

ケースだといえない。大阪府下にある四十カ所ほどの精神病院のうち、医療法の基準などに照してみた場合、その半分は失格するのではないか。府の監査が、人手不足などを理由に十分行われてい

の人権ないがしろ

調査結果によると、同病院は許可病床數四百六十二に對し、一日平均入院患者數は四百九十二人（四十六年度）で、三十人もオーバーしていた。医療法の基準から

また施設面では、四病棟の①より④まで、西病棟はほとんど
者科化した木造の平屋建てで、保健室には畳敷きであった。さらに西病棟には九十人強、きほどの大部屋に三、四十人の患者が雑居していた。余病を併発した患者の下着の取りかえなど他の入院患者がしてしたが、病側側は「隣人達の発露で、自発的にやってみよう」とと説明していた。これに対し同調査結果は「人手不足の補充と思われ、衛生好ましくないとはい明らかな」と指摘し結論として「構

みて、患者六人に一人の看護婦または看護士が必要なのに、同病院はほぼ十八人に一人の割合。医師も、たとひ二月に同病院を巡察したときは、常勤医四人（うち精神科医三人）で、基準より三人足りなかったといふ。

神病院はやむを得ずと、治療の場ではなく、患者の収容施設でないし、一歩後退して患者を食ひ物にする危険性をいづちばらんでいる」としてゐる。

沖繩青年婚約者殺す

「奪った都会憎い」と上京

二十六日午後九時半ごろ、新宿の庵に於て緊急逮捕された。
 新宿三の四人、沖縄料理店（横
 坂一丁目丹次屋學子さん）の経営者
 で島友さんの長女、知花律子さ
 んの二姉妹区長町二八、富久
 さんが家の奥に腹刺され、奥も
 亡くなった。男は四愛園に殺人
 の疑いで緊急逮捕された。
 関氏によると、男は沖縄県中城
 （なかぐすく）村（西一九九、印
 刷工、新垣正雄）の。自供による
 と、新垣と知花さんは同じ村の出
 身で、四年前に婚姻。新垣は中城
 村に新居のテラストを借り、結婚

式、新生活の費用約百万円を用意して知花さんが帰るのを待っていた。しかし知花さんは三年前、母親の「模範」で働くようになってから沖繩には歸らず、あまり交際しなくなった。

ヤナギ包丁（刃渡り約二〇センチ）を買ったうえ、同郷の友人と「桜坂」へ来ていきなり客席からカウンターに入り、調理中の知花さんを包丁で一突きした。

新垣は「女を縛った都会が蝸い」と興奮していた。

豊中の精神病院

元
医師の“告発”は事実

患者の人権軽視

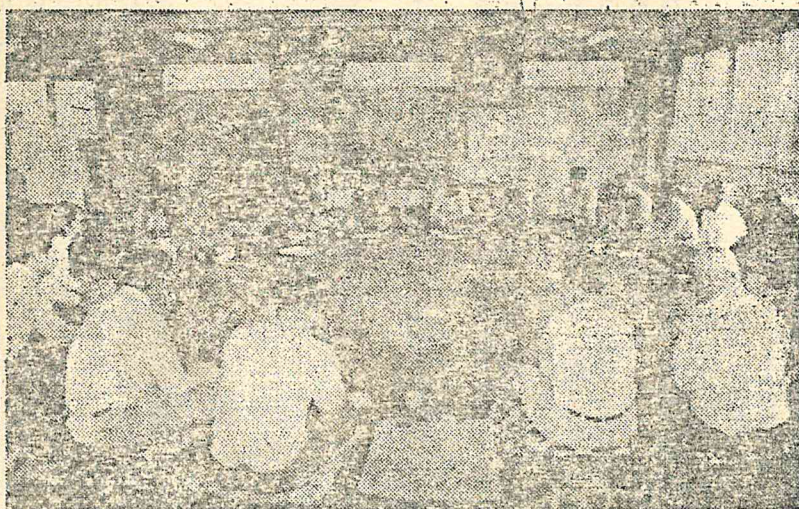
近弁連、大阪府へ監督を

近畿弁護士会連合会（植垣幸雄理事長）は豊中市豊南東二の六、精神病院、豊済会小曾根病院（戸田留次理事長）の元医師の申立てで、同病院における患者の人権侵害等犯罪を調べていたが、このほど「医師、看護婦は不足し、患者を診る取替へまでさせ、作業療法の名を以て、患者の生活に支障を及ぼす」として、調査結果によると、まず、看護婦、准看護婦が二十七人（四十六年度で規定より五十六人不足している）、常勤医師も四人（このうち一月で三人不足。病室うちは一室がひとく、便所には土管しかない、調理室も不衛生。病室にはベッドがなく、景致の大部屋

除、フロたき、余病を併発した患者の世話をしている。また、四十四年十二月當時には戸田運喜が経営する余社に一部の患者をなにか強制的に運動させていたことも確かめられた。作業療法による収益は患者の福祉に還元すべきなのに、四十四年六月當時、二年間の収益三百七十四の使途が不明。

酒に勝った!

成果あげる あいりん地区中毒患者施設



大阪市がこの四月、西成区あいりん地区(釜ヶ崎)のアルコール中毒患者のために全国初の社会復帰施設、同市立弘済院救護第二ホーム(吹田市古江台六丁目)を設けてから半年になる。わが国のアルコール中毒者の治療対策は精神科院内だけに終り、退院後のアフタケアがないため入退院を繰り返す人が多いのだが、この施設で生活指導や職業訓練などを受けてきつぱり断酒、定職につく人も出ており、アルコール中毒対策の困難さを切りひらくものとして関係者から大きな関心が寄せられている。

半年で17人が 社会復帰果す

入所者は元国税局員、神主、設計技師、小学校教諭など。酒におぼれて職を失い、家族や周囲から車座になって酒の失敗を話しながら断酒を誓いあう集団精神療法(吹田市古江台六丁目の弘済院救護第二ホームで)

見放されてあいりん地区へ。そして居間から泥酔し、精神科院の入退院を繰り返してきた人たちが、「病院では肉体の健康を取戻せても、アルコールにあこがれ、たまふ心の病気がなおったわけではない。退院後の断酒教育が必要ではないか」と、市は去年四月から弘済院内に実験的に専門の部門を設け、今年四月から正式に発足させた。

開業当初のような格好も力半もない。外で酒を飲むと思えば飲めるし、いつでも飲まれる。「それでも飲まなかった」という自信と自制心を退院するとき身につけられるようにとのねらいだ。規則正しい生活、酒の失敗談を發表して断酒を励まし合う集団精神療法、屋外での作業療法などをすることによって、身にしみていた不規則な生活の「アカ」が落ちはじめたり、指導員が就職先をさがす。就職先へはホームからしばらく遠い、本人に断酒の自信がつき、会社側も承知したら、退所して正式に就職する。

入所者は、こし九月末までに延べ百八十八人。入所者のうち断酒に成功して定職についた人は十七人。しかし、四十八人は酒をやめられずにあいりん地区へ帰り、

残りは精神科院への再入院、内臓疾患による一般病院への入院など。元国立久里浜病院精神科部長で、アルコール専門医のなだいなださんは「十七人という数字は、驚くべき成功率だ」と評価する。家族持ちは家族の協力があがるが、あいりん地区や東京・山谷などの「單身者は不可」というのが定説だからだという。

なだいなださんの話 先進国ではアルコールは社会的産物として国家的治療体制を整えているのに、日本は役所はすいぶん差れている。入院は治療の第一歩でしかなく、アフタケアがない限り、完全な治療体制とはいえない。どういう意味で、弘済院のやり方は特別なことです。このさい、酒は酒税の少なくとも一割をアフタケア制度の確立に毎年つぎため、と提案したい。

二七の集約を
許可す

〈座談会〉

自らの立場^{たちば}にたいして

つづけて……………

☆出席者

A 会員 22才男

B 会員 18才男

C 会員 20才女 看護学生

☆とき 一〇月二九日(日)午後四〜五時

☆ところ 西成区内某所へ(A宅)

※テープをわけて整理した者 B

☆ ☆

この日のまえがきにも書いたように、最初の「医療を考える会」の単なる「医療に関するいろいろなことを考える・問題とする」という結合環を破壊して、進めるためにはいいの(そう)、そのためには自分はどう生き何をすればよいのか」という太く回をきべり、一致するよう作業を集中してきました。

☆

その一つとして、ヤミヤミ行なうた討論を録音(お)こしてみました。ところが、話し言葉とは、生きている、かわりにムチが多く、恥ずかしいかぎりです。その手まではわからないところを除いて再録します。

☆ 座談会 ☆

〈はじめに話したことをまとめること〉

「活動家」と「労働者・素人・大衆」との関係が、前者が後者の自立をたすけるのでなく一方助になっている。この誤りはどこから来るのか。理想の先走りというが、現実には大衆に学ぶという方向がなか

2

2

頁

2

3

頁

天

れをする救援組織が必要だと思うてたんや。ところが、途中で「ロク」とかわってたんや。な。面会にいったらさうかわってたんや。奥感としてかわってたんや……。活動家なんて言うてくもたら孤立せえへんのや、ほんまに救援の対象とすべきなのは、ほんとに孤立してびっバラになってくもた労働者やないかと。それをつなぐ一つの媒介として救済というのがあるんやないか。

B——救援というイメージがでてきた途上で、医療を考へる今はどういうふうな感じや登場したん？ 越冬の時、そう書いてたんやがう。医療班……（主：越冬対策実行委員医療班。どうは「いのち」創刊号に資料として収録）

A——医療班としては困ってへん。救援ちゆう感じからいうたら越冬なんて全然俺とは矛盾せえへんし、むしろ種族的に隔わってると。だいたい見わたして「んがはまてまれへんちゆう感じで俺が司令やっつてんがどききた」。メンタルはじめて現場のな

やつぱり現実に向かいつたら、病院にかつやまなり医療センターとけんかするのよりちゆういどがでてきたんや。さうやつぱり拘留所と面会に行へんてい形態としても非常によく収めてるし、なんか、その入んのところへの関わりがなされてないちゆうことが、非常に、現実の問題として、あの「何か、今までの金ヶ崎の運動ちゅうの、二七もののやつたんちゅうかなちゆう気がして来たワケや。それで医療をきえる会がでてきた」と。俺は思ったんやけれども。

B——さやね、一番最初は……。

A——……は、やつぱり手が出せへんかった。出しきれんやろし、もうやつぱりまだまだとっとうそへんのとさわりきっていかないかと思っただけ、さうかなというのは、自分がある程度だれてた時やし、逮捕者がある程度……（主：メナがったときこころが関わりはじめたら、バカくくとしてきたわけや。で、現実の問題として、今までの救援にかかわってきた活動家、労働者の関係からい

くど、やっぱりしんどなう、きたちゅうかな。むしろ、何ていうかな、何で救援せなアカンのか、面会なんか行、たらようわかるやん。例えば、同じ年ころの人間が……資料みたに、たらようわかる。どういう生いたちでどういう過程で……ち来たかようわかる。で、そこらへんの、自分との歴然たるちがいうのは、「キスリ」にも書いたと思うし、そのへんのビーズと……でできたと思う。活動家の救済よりもまず活動家の救済の方を、やっぱりそのへんのことと同じ問題があると思うて、自分のや……ること、自分自身を同様する場として、医療みたにな入ってきてもエエんやないかちゅう気がしたんや。それほどの気はなかったワケや。まず救済、い……う気持あったし、だからこんな状況になると……、時に、そうだった、活動家と活動者みたいな問題、大きく……てると思う。だから、俺としては、も……と……と救済に……たい……感じ……、だから……いう問題あって、病院へ面会に行く、ち

ゅうの、なんか非常にしんどい、時間的にあつても、なんか気分的にしんどいわけや。や……とやらなあか……とは思うんや。けど精神的な面でやっぱりしんどいちゃうか。だから今度の越冬も救済として……、医療として……も、……から今度の越冬、……と……も……わかん。

B——無理やうけな。ま……ん。

A——十二月……たらズーと……は……るわろし……。

B——そやな。

A——實際、……ちゃん……ように……めれるヤツがれへんねんや。

B——……めれるヤツ……いうのも、……めれる体制……。

A——体制……の、やっぱり救援……な軸……なるワケや。

B——そやな。

A——……いうても……ちゅうのは、救う、……な

ところな。やっぱりそこへ入るところが入って行く
ベキやろとは思ふのやけど、現実にはやそこへ入ら
てきた問題またいな大きいし、やっぱり、救う、い
うの、向に入らなアカンちゃう部分的な問題や。例
えは、こうちに入ってる。一回筆を打つ分あったら
どうして行くベキやいつの、話のすじ道としてはで
てくるベキものやと思ふ。あとは予定がちおうたら
救済センターの方行くし、医養の会の話しあいに出
んど。だけれど、そういつた関わりをもみとめる体
制が医養を考へる会にあるか、ちゃうたら……。

B — 今、ないわな。

A—おさうく。ない。と思つんや。人がおれん
ちやうど^{ちやうど}おれんや。

ブーイヤ、こいつのちも、やっぱり、救済じゃな
 くとも動としての救済、いふうな感じまで、ブーとに
 してもな、活動家の部々、どう受けとるかちやうた
 う……（主）テーをううがえす途中、切れている。
 この間、Bが、原則がはう、キリしてないことが、多

はね、やばり、そんな意味での救済じゃないはず
やし。

A—そういつとしか出てきひんねん。今の字
生運動てのは。

ち——そこをきいて、うう、これは、今の金の活動家み
 たら、同質やと思うよ。そこでもいうていくんか。今の
 活動家、いうのは結局あれやんか、その一学生であつ
 た頃の自分、うう、過去の問題、ううかな、そんなも
 ん、あの世として、あるいは、それを避けるために、こ
 こにきてるんちゃう。と思うよ。

A ————
 それから僕はせおいにめつていゝるや。

B — 言つても通ひんねろ

A
—
通いひんのわ。

B—— 相はんのや。それで過去の問題放り出すの
に、お前さんと面会に行つてもかいあつたらわかるよ
うな問題をやな、それを、一番大切やと僕は思つてゐ
んや。けれども、そこへ入んどこ、ヤけてしまかして
やれるわけやね。今の……。え。そない思つよ。

様な形態をみとめられないという弊を生みだして
いる、と主張。そして、こ

A——なんで救済があつても救済運動がいかつちや
 うのも、さういへんの問題や思つ。けど、結局、革
 命運動のオー拡大再生産を—するためのオー唯一の
 中止めである。——ちやうか感じどこかないワケや。
 いうてみたら、さういう視点からいう問題と、いつの
 は、要するに、活動家をいかに言ていかに革命家に
 したてるか、さうで、やっぱり、刑務所は教育の場
 、革命の学校であつちやうな感じがしてゐる。

B——はいつまでも。俺、どんなイメーじやう
たら、最初からなんでもいやう。たんや。一番きつ
いやう。たわけや。いわゆる学生運動が自分の身分中
つて、守つた上で街頭へ街頭へ出ていつて、で何月
決戦やらなんやらやつた時に、そんな中でも、まだ、
自己保身やつてる人種にみえたワケや。カバンもち
やつて、せうせう弁護士のつきまいて……。最
初みてたとき、そうやう。たんや。僕からみてたとき

それから學生とかいうて、ま、否定のつもりで働いてるのかしらんけど、やっぱり労働者からみたら、學生でありぬ校舎なんやネ。そこらへん言うてこそんな意識ないしな。階級分析とかいうて、學生、労働者、職業分類やって、俺自身かてそうやけど、学校おつたときや、學生と話したいつたら、高校中退いつたら、ま、學生の否定になつたかしらんが、金へ来たらちがう。やっぱりコワ者いうか……。

A—學生さん。

B — なるべし。

.....

A——しかし、男、この解決の道あるんや、ある意味で。

B—何となく、
どういふ意味か。

A—仕舞とモヤリで。

B — あア、そうやろネ。

A——ナ、女、ち、うのは、や、ぱり、その、も、と
も、と、き、び、しい、もの、を、求、ま、さ、れる、の、を、が、う、か、ナ。お

そらくいつしよなんやけど、表面的な問題としてはあると思う。非常に、女であつたら非常に評価される、ちゃうかナ。女としての面を。女、ネ。性的対象としての女。

C——Dさんが来てから何か月になるのかな?

B——七月ごろかな。AさんAさんというて。

A——Dさんつかうこともできてない。

C——私ネ。私らの会議でもDさんがしゃべれるのみたら、ホント、生保(注:生活保護)のことだけでしよ、あの人。それしかしゃべりはれへんわろ。なんで、私、あの人があれしかしゃべられへんのか思て。最初は、なんでしゃべられへんのか思てたけど、ようきえてみたら、うちのなか下、しゃべらすもんがなか、たちがうんかナ、いうて、何かすく、最初の入り方がそうやつたやんか。生保の顧問としてDさん……。保健所行くことは、Dさん、やつてもらつたけど……。

私、なんか、差別してるのかな? 私らやつぱり、

労働者のためにために言いながら、Eさんでも医療を考へる会に来はつたけれども、結局しゃべりはつたのは、私らがしゃべれへんようになつてからや。

やつぱりうちらが話するときなんか、来はつたんだアれもしゃべりはれへんやんか。しゃべられへんやうなふんい気。私ラ、Nさんとか、私ラとか、Fちゃんとか、あとこらネ、最初からやつてゐる部外で片キツとかためて作つてゐるんがうかな?。ほんとなくしゃべり込まれへんみたいなの、わかれへん話をしてるな、いう感じ。だから、そこちやうかな?。結びつきもたれへんの。普通のお、ちゃんとお、ちゃんの結びつき、いうのかナ。一人一人来てもらつてサすわつてもらつてサ、あとで二人一人話してもらつたような感じ。サアだれかれさんの話、聞まましか、みたいな感じしか合議やつたことない。前から気になつてたんやわア、Dさんのこと、みんなじゃない思てるんかなあ思て。

あの人はいつしよにやりたはいうて入つて来はつ

たんや。でもうちら、むかえる姿勢がなかった。全
面的にいっしょにやりましょ、いう……。

B——というより、醜いってまづりあげてこそ
やな……。

C——そや、あなたはここだけに私に知識を貸し
て下さりたいな。

B——だから、そうじゃなくてやな前に言うてた
専門家だよるんじやなくて素人こそがすばらしい
の。中味はネ例えは、彼が×××会か曰共の組織に
する見方、従来の左翼に対する見方、口だけエエか
っこのいつても何もやらんし、実際に、労働者の利益
になつてないし、実際動かないんや、いうふうな
その見方をどうぶいうか？ とういうなんが、俺も含め
てやけどなかつたいうか？ で、それないから、彼
が一番心配してる、だれだれでけるへんけどどな
いしてる（注：毎週日曜の集合のこと）、バラバラ
なんちゃうとか、一人で رفت、た（注：保健所へ）
いう話ができたり、や、ばりそちへんちがうか

A——その二つBの言いかたに関しては、非常にやっ
ぱ、疑問を感じるのは、素人のすばらしいさ、ちゅう
のはよくわかる。ま、いうてこもたら、いい面とか
すばらしい面なんぞはうといてもかまへん、と思う
運動の対象としては、も、とそのむくけ面とか思
い面を含み込んで運動の基盤があると思つ。だから
そのすばらしいさを強調するあまりに、その一なんか
を切りすてきたんやないか、ちゅう……。それが
労働者を物神化、神さまみたいな形であがめてこそ
で、ちゅうな部分もあると思つわ。素人ってのは確
かにすばらしいかもしれんよ。ただ、現実の問題と
して、素人が医療の問題に関して、これはどうした
らエエんや、と、Bはハリのつと知つてると、それ
はちがう反対する意見で、当然でるんや、気がい
ちゅうてなれへんねや、な、イヤちがつんね、か
そつとこの一そうけつ、た場合、気がいちゃうてな
おれへんねや、っていう形で言い切つてしまつ労働
者をほんまに包摂していくいうか、包み込んでいく

ちやうど勢に任せ……。もうちょっと点検して
みる必要があるのところが、いい気がする。

B——しかし……。

A——そんな言葉の問題や。要するに、あれや、
すばうしやうくい返ったやんか、こまうん
や。香ひひくひ返ったや、あれや、バカになつて
しまふんや。それが現実ちやうもんや。医療で考
える言つて現実……なるほど現実の上にたてあか
ん。さうや。さういつた意味で、いつたり、裏の部
ちやうたらほんと……。ナァーが衝動は野生的や
ア——ちやうど、いつてもまた同じや、いい気が
する。

B——それに所する反響としてあつたつもりなんや
けど……。やっぱさういつていわれて、一人一人
とどういつた方がいふたら、例えば、Hさんな
んかの例でしたら、彼のイヤな面いつのんと、最初
の関わり方点検して、それをくつがえしていくとい
う作業、できてないやネ。それを強化する形で、福祉

センターへいしょに二〇〇〇円(注：入院一時見
舞金)ぶんどりにつけてもらやな、関係いにな
つた、思うねん。

C——私を

A——Hさんにしてもらへんことを結局、運動面
での関係しかあれへんや

C——そう

A——たいしたことあらへんや

B——けど、医療いつたらそんななりやすいんち
がつか、逆だ。救護いつたうな感じであつたら、い
しよに二〇〇〇円ぶんどりに行つたり、いしよ
に救急車呼んで、下着着ていって、さういつたう
な関係。最初の人間関係くつがえすいつたやなくて、
拡大するようや……。むずかしい。

C——病院から逃げてきた人の、逃げてることでし
事務所へいしよ。ほかの病院行つていつて中車組
(注：中央更生相談所)いしよに行へしよ。私
それがおかしいんちやうか、思う。Hさんの話、や

っぱい阪和(注：救急指定の阪和病院)があかんい
つて、阪和がイヤなつたら、もうペン阪和いつて阪和
を隠すえて阪和がどいが悪いんか、やっぱうその人
といしよに追求していくいつたかな、大和中央の患
者会みたいな形でしていくべきや。たんちがつかな
ア。だからHさんのこと思たら、そんなこといわん
ともうペン阪和隠して、さういつたうに話するど
か、もう一つ道あつたんちがつか思う。今のHさん
の話きいてたら、阪和は悪い、悪いからあんな行
政に訴えたるいつて、中車組行つて又同じつたり、
市役所入行つて又同じつたるいつて、そんな形でこ
かえさつてえへんやん。急にいふんから出てきた、
そんなんいつて、一人一人帰つてきたら、いふが気
に入らんいつたかえさつてきたら、変えるもんちやう。
私なんか、いつたらきれいな立場やから言えるんか
しらんけど、実際病院あつて……。実際は射される
の自分やし……。その本人のこと考えたら、逃げて帰
つてくるの無理ないな、思うけど。長い目でみたら、

ほんま、それがええことなんかなア。患者の立場に
たうとかや、とりかたよつて問題ちやうかな。

B——Hさん、こんどの前のと話したんやけど、
救急車呼ぶたなかつたんやけど、呼んでしもた。阪
和悪いし、救急車行つても、果てええんか悪いが
C——みんなわかつて帰るんや

B——なんこと、俺は上江Hさん知つたハズや
うで、それで何でそんなのからいつたら……。ま、行つた
つてケタオチ(注：名悪なことで、病院や、知ってる)
し、その上(注：じゃ、る時距離あるんやけど)、いっ
しやうけんめいやつていけるいつ感じを果るわけや、
さういつた意味であつたら、一番その言えぬ人間
しやあせめる人、近まあるいつてきた人いつたが
口ひらくいつたや、場合によつては違ひつてゐる、ち
やや。

C——Hさん、きょうもいつてただけで、俺はいつて
も阪和果にいわれているから、阪和打けるんや、それ
でも、何べんいつても阪和いけるんや、みだいな……

そこが変わっていくもののどこにあるのか、結局で
たり入ったりしたう、病院の中ではHさんの立場も
しまいに悪くな、てしまふし、阪和とそんなやつ
たら、よきでもうけ入れてもらわれへんやろうし……
。Hさんがその批判するの、こうやうたらアカン
いの、感覚としてまばらしいと思うの。今までなか
った、Hさん津浦士れて、自分で勉強してき、さん
な……、なんか、私う、それわかってき、へんな
意味で、言ったんちゃうかうかいう気がするわ。今なんか
けいしょうけん命、世の中悪い悪い、文句いわなあ
かん、なぐさなあかんいうて、けいしょうけん命、
Hさん思てるみたいやけど、なんか……ピンとけえ
へんな。今まで交わってきた人、一人一人考えてみ
てみたら、自分らのやつてきたことがわかれへん。

《A・B、こしはうく黙ひ込む》

B——Aは、まず救済に重点をおくわけか。

A——うんまあそういついってね。

B——救済運動の二環としての救済にAは、たわる

わけね。俺は医療にたわる。ちがった場でも同
じ方向にあることを確認したい。(つづく)

☆ ☆

このあとの部分は略します

このあと、大和中央病院新組、およびその運動の取
判を中心として討論はつづくが、別の機会に、なんらかの
形で人目にさらしていかうと考えています。意見交換
討論の要旨は、次のこととなります。

一、A・B「組合をまとめる軸というのは貸上げしかな
い。銭のためで(それで)エエや。能書きにたまる(B)
な」この「わたしらは患者の利益を考えていくんや
から、組合でもそれに反するんや」たうつぶれても
しゃあない」といつ言葉にあちわれているように「
左翼」「組合」が何いおうと貫く原則の両面。

一、「患者のため」というコトバで一致しても、現在、
組合と私たちの間には対立があり、一部でなれあい
関係がある、といつて。

一、病院内の斗争の限界と患者会、新聞の方向のこと。